



# Si-REPORT

Socio-Intelligence report

専修大学のビジョンと現状

2016  
Vol. 11

## 建学の精神と21世紀ビジョン 「社会知性の開発」

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、米国のコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てよう。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。4人の創立者は、帰国後、経済学や法学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立します。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担いました。以後、本学は関東大震災や戦禍などによって極めて困難な状況に直面しながらも、学窓の灯火を守り

続けてきました。21世紀に入った今日においては、私学全体にふりかかる大きな荒波を乗り越え、さらなる発展を遂げなければなりません。常に創立の原点に立ち返り、本学の進むべき指針を熟慮するとき、自ずと道は拓かれます。その指針として、本学は建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」を21世紀ビジョンに据えました。今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題は山積しています。これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められます。こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」だと専修大学は考えます。それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあります。

### 専修大学21世紀ビジョン「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

#### 社会知性（Socio-Intelligence）とは

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力である。

## 新学部・学科構想 具体化へ

専修大学長 矢野 建一

専修大学は2015年9月に創立136年を迎え、140周年をめどに新時代にふさわしい大学をめざしてスタートを切ろうとしています。

2014年4月に導入した新たな学士課程教育は、全学カリキュラム協議会のもと順調に推移しています。また、国際通用性のある学力評価指標とされるGPAを導入し、教育開発支援委員会とともに「教育の質保証」のための検討も開始しました。

学術研究の面では科学研究費助成事業の新規採択率が全国公私立大学のなかで7位（40.3%）、私大では2位を獲得し、その充実ぶりを示しました。

資格取得の面では、新司法試験では13名が合格しました。公認会計士試験では21名が合格し、このうち11名が現役合格という快挙を達成しております。

本学の国際交流の拠点ともいべき国際交流会館では、「寮内留学プログラム」などの試みも本格化しています。さらに神田5号館も学生の自発的学修を促進するいわゆるアクティブ・ラーニング対応の新施設として各界の注目を集めています。

スポーツの分野では、野球部が2015年度東都大学野球1部リーグ（春季）において52季ぶり32度目の優勝を果たしました。久しぶりの全学休講措置に5,000人を超える学生・卒業生が神宮の杜につどい、声高らかに校歌を斉唱したことは記憶に新しいところです。

しかし本学の前途は決して楽観できるものではありません。最も憂慮されるのは、18歳人口が2018年を境に再び減り始め、2018年から2031年までの間で約20万人も減少するとみられていることです。

こうした状況の中、本学の最重要課題は、神田靖国通り沿いの新校地に21世紀にふさわしい新学部・新学科を設置することにあります。

2014年10月、理事長のもとに設置された「専修大学キャンパス構想の基本方針検討会」より、学長のもとでの新学部・新学科構想の検討が求められたことを契機に、昨年末まで慎重な審議・検討を重ねてまいりました。その結果、①グローバル・コミュニケーション学部（仮称）を神田に創設②商学部の神田への移設③ジャーナリズム系学科を生田に設置、を骨子とする構想を取りまとめました。課題は山積しておりますが、実現に向けていまこそ全学の叡智を集結し、「社会知性の開発」に邁進していく所存です。今後ともよりいっそうのご理解とご支援をお願いいたします。

### Profile

〔略歴〕1949年長野県伊那市生まれ。72年専修大学文学部卒業。80年立教大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。文学修士。92年専修大学文学部助教授。98年教授。文学部長（2006～10年）などを歴任。専攻は日本古代史、日本文化史。最近の著作：共著『遣唐使の見た中国と日本』（05年、朝日新聞社）・共編者『長安都市文化と日本・朝鮮』（06年、汲古書院）・共編者『長安都市文化と日本・朝鮮』（06年、三秦出版、※前記を日中同時に刊行、中国語版）・共著『地域のなかの古代史』（野田嶺志編、08年、岩田書院）など。

# 知の発信のための研究開発

## 【新規国際交流協定を締結】

### 国民経済大学との組織間協定を新たに大学間協定へ発展。

本学は、ベトナムの国民経済大学と2015年12月9日に国際交流協定を結びました。本学商学研究所と同大学ビジネススクールとは、2011年より国際交流組織間協定を結び、2015年4月に協定の締結(更新)をしましたが、今回はその実績を踏まえて大学間協定へと発展したものです。ベトナムとの大学間協定はベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学に次いで2校目で、経済発展が著しいベトナムと交流を促進することは、メコン地域を舞台にした企業研究の深化にもつながると共に、本学としては今後、学生間交流にも積極的に取り組んでいく考えです。国民経済大学は1956年に創立され、首都であるハノイ市中心部にキャンパスを有し、経済学、経営管理、ビジネス分野においては同国トップクラスの大学で、ベトナムの市場経済化に即した人材の育



▲国民経済大学のキャンパス

本学では社会・地域貢献として教育・研究とともに『知の発信』を大学の使命の一つに位置づけ、様々な研究開発へ取り組んでいます。



▲ベトナム国民経済大学ビジネススクールとの協定締結(更新)式

成を担っています。学生数は約5万人、学部は商、国際教育、マーケティング、銀行金融、法、外国語など15学部を持ち、大学院、研究所も設置されています。同大学ビジネススクールとは商学研究所のほかにも私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「メコン諸国における経済統合の中小企業への影響についての研究」などのプロジェクトを通じて研究交流を行ってきた経緯があり、本学社会知性開発研究センターとも協同関係を構築しています。

### 交流10年目を迎えたカルガリー大学と国際交流協定を締結。

1966年にカナダ西部アルバータ州カルガリー市に創立されたカルガリー大学は、教育、研究の両面で世界のトップレベルの総合大学です。人文、経営、理、工、医などの16学部を持ち、学生数は学部・大学院生あわせて約3万1000人に上ります。専修大学とは本学国際交流センターが2005年から実施している日本語・日本事情プログラムに、これまで212人のカルガリー大生が参加するなど11年前から毎年交流を続けており、その長年の実績が今回の大学間協定となって実を結びました。カルガリー大学には本学が擁する学部に対応する学部が多くあり、交換留



▲カルガリー大学



▲モダンなデザインのキャンパス



▲高橋国際交流センター長と国際交流協定の関係者

学生の相互派遣など国際交流の枠が広がると同時に、すべての学術研究・教育分野での交流が可能となります。また、カルガリー市はアルバータ州最大の都市であり、石油産業などを抱える経済的中心地でもあるため、成田空港から直行便が就航しておりアクセス面でも好条件が揃います。今後は学生の専門分野での交流に加え、教員の研究交流も期待されています。

## 新規国際交流組織間協定締結

### タイ、ベトナム2大学との協定締結により、アジア地域における国際研究交流を拡充。

専修大学社会知性開発研究センター／アジア産業研究拠点は、タイ、ベトナムの2大学と新たに国際交流組織間協定を結びました。新しく協定を結んだのは、タイ商工会議所大学経済ビジネス予測センターと、ダナン大学ダナン経済大学の2校(機関)となります。タイ商工会議所大学経済ビジネス予測センターは、タイ商工会議所の調査部門が独立し、1984年に大学教育機関として設立されたもので、マーケティング、ロジスティクスなど8学部を有します。英語によるビジネス教育も行っており、ビジネス分野の教育機関として高い評価を得ている大学としても知られています。ダナン経済大学は、1984年にベトナム中部の

都市ダナンに設置され、1994年にダナン大学傘下となりました。学部は会計学、公共経済学など14専攻のほか大学院も備えて研究成果も多く、社会科学系の総合大学としてこれまで多くの人材を輩出して

います。この2校との協定を足がかりに、今後は本学アジア産業研究拠点の研究対象であるメコン地域5ヵ国との研究交流の推進に期待が高まります。

| 国際交流組織間協定校 Overseas Partner Organizations |                                                                                                                                 |  |
|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| ベトナム<br>Vietnam                           | ベトナム社会科学院社会学研究所(社会知性開発研究センター ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点と協定)<br>ベトナム社会科学院東北アジア研究所(社会科学研究所と協定)<br>ダナン大学ダナン経済大学(社会知性開発研究センター アジア産業研究拠点と協定) |  |
| タイ<br>Thailand                            | タイ商工会議所大学経済ビジネス予測センター(社会知性開発研究センター アジア産業研究拠点と協定)                                                                                |  |
| 韓国<br>Korea                               | 湖南大学人文社会学部(文学部と協定)<br>財団法人東亜細亜文化財研究院(大学院文学研究科歴史学専攻と協定)<br>忠北大学人文学部(文学部と協定)                                                      |  |
| 中国<br>China                               | 南開大学法学院(法学部と協定)                                                                                                                 |  |

## 平成27年度科研費、新規課題採択率40.3%

### 全対象研究機関中7位、私大では2位に。人文・社会科学系大学として高い実績。

平成27年度科研費(補助金分・基金分)の配分状況が文部科学省から公表され、本学の新規課題採択率は40.3%(全国平均26.5%)という成果となりました。通常、新規応募件数10万件に対して採択率約3割と言われる中で、この実績は各研究機関や国公立大学の中にあって自然科学系の学部を持たず、人文・社会科学系を主とする学部構成の本学としては非常に高い採択率と言えます。また新規応募件数が50件以上の研究機関の中では採択率第7位となり、私大のみを対象とした順位で

| 科研費の新規採択率が高い私立大ランキング |       |       |
|----------------------|-------|-------|
| 順位                   | 大学    | 採択率   |
| 1                    | 立教大   | 45.1% |
| 2                    | 専修大   | 40.3% |
| 3                    | 日本女子大 | 40.0% |
| 4                    | 関西学院大 | 39.5% |
| 5                    | 南山大   | 38.7% |

2015年度新規採択分。応募件数50件以上

は第2位となっています。このランキングは、新規応募件数が50件に満たない大学はカウントされないため、専修大学の応募件数と採択率のバランスの良さを示す指標であると言えます。

※科研費(科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金)とは、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究(研究者の自由な発想に基づく研究)」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」。

| 平成27年度 科研費新規採択分採択率(平成27年9月現在) |                      |       |
|-------------------------------|----------------------|-------|
| 順位                            | 機関名                  | 新規採択率 |
| 1                             | 一橋大学                 | 55.6% |
| 2                             | 立教大学                 | 45.1% |
| 3                             | 東京外国語大学              | 44.3% |
| 4                             | 国立情報学研究所             | 41.2% |
| 5                             | 国立遺伝学研究所             | 41.0% |
| 6                             | 国立研究開発法人国立成育医療研究センター | 40.6% |
| 7                             | 専修大学                 | 40.3% |
| 8                             | 日本女子大学               | 40.0% |
| 9                             | 関西学院大学               | 39.5% |
| 10                            | 南山大学                 | 38.7% |
| 11                            | 東京学芸大学               | 37.9% |
| 12                            | 国立研究開発法人国立循環器病研究センター | 37.6% |
| 13                            | 東京大学                 | 37.4% |
| 14                            | 日本福祉大学               | 37.0% |
| 15                            | 同志社大学                | 36.8% |
| 15                            | 静岡県立大学               | 36.8% |
| 15                            | 九州歯科大学               | 36.8% |
| 18                            | 京都大学                 | 36.4% |
| 19                            | 国立医薬品食品衛生研究所         | 36.4% |
| 20                            | 中央大学                 | 36.3% |

# 専修大学の学士課程教育 社会で光る学生の育成に向けて

新カリキュラム構想時より制度の設計に携わり、現在は全学カリキュラム協議会共同座長、並びに教養系科目運営委員長を務められている佐藤教授に、新制度へ込めた想いと今後の展望について伺いました。



## 大学教育の在り方を提言する 新たな学士課程教育。

—— 専修大学の大きな転換点となる新カリキュラムとは、どのようなものでしょうか。

一般的に従来の大学教育は教養科目と専門科目で構成されていました。専修大学の新たな学士課程教育は、それらに加えて、大学生あるいは大学卒業者に必要とされる知識やスキルを身に付ける教育を明示した構成となっています。まず「転換教育課程」で、高等学校までの学びとは異なる大学での学びについての理解・修得を目的に、学習方法や議論の方法などを指導します。次の「導入教育課程」は大学の様々な学びのイントロダクションとなるもので、外国語やキャリア教育、情報リテラシー、基礎自然科学など、所属している学部の特長にかかわらず学んでほしい科目を集約しています。そしてさらに教養科目を学ぶ「教養教育課程」、専門科目

を学ぶ「専門教育課程」とステップアップしていくのが基本的な流れです。

## 導入時に感じた手応えと、 導入3年目への期待。

—— 導入してから3年目を迎えましたが、手応えは感じられますか。

教育は効果が現れにくいので、まだ具体的な手応えはわかりませんが、私が担当する科目に限れば学生の学習姿勢に大きな変化を感じています。講義の問題設定や展開に対する理解力が高くなり、熱心に取り組む学生が多くなったように思います。

## —— 教養教育課程に含まれる「融合 領域科目」の存在が特徴的です。

融合領域科目とは、教養科目と専門科目をつなぐ役割の科目群です。現在、社会で起きている現象、解決すべき問題というのは一つの分野だけで解決できるものでは

ありません。複数の分野からのアプローチがあって解決への道筋を立てられるのが常であり、大切なことです。ですから、自らの専門分野を深く学び、極めるだけでなく、より多彩な分野を学ぶことで豊富な知識と経験を蓄積できる教養科目を設置しています。融合領域科目はこれらの橋渡しをする科目として設置しました。様々な学問の関連性を意識することができるようになる、というのが大きな意味での科目の目標です。

## —— 今の大学教育は専門科目のような特定の分野だけに特化する のではないのですか。

専門性はもちろん重要です。日本の大学教育は本来、専門性の向上を柱としてきました。ですが、高等学校での学習指導要領の変化や高校生の大学進学率の増加など様々な影響により、今、社会で求められているのは専門性のみならず幅広い教養による総合性であると言えます。

特に現代社会においては、エネルギーや環境、再生医療など身近な問題と自然科学が密接に関係しており、私たちの生活に自然科学的な考え方や自然科学の研究成果は浸透しています。また、ビッグデータに代表されるように、統計学の知識や考え方も社会生活や経済活動において非常に重要になっています。「文系だから知らない」、「専門科目ではないから学ばない」という言い訳は社会では通用しない時代になりつつあります。専修大学は、社会・人文科学系総合大学として、以前から教養教育には注力してきましたが、この学士課程教育の確立によりその重要性をさらに明確に体现したということになります。そしてここで重要なのは、専門科目であれ教養科目であれ、それぞれをただ単一的な学

びで終わらせるのではなく、学生一人ひとりが自らの学びを有機的に結び付けていくことです。この学びの結合を通して、物事を広く、深く見つめられ、課題を見つけ解決する力が培われる。その後、社会人として活かせる能力になっていくと考えます。

## 様々な領域の学びを融合させ 自分のものとする最終段階へ。

—— 専修大学が掲げる21世紀ビジョン「社会知性の開発」と通じますね。今後の展望をお聞かせ下さい。

「社会知性」は学生が社会に出てから必ず必要とされる力です。その力を身に付けるのは学生自身ではありますが、学修のモチベーションを高めたり、積極的に学べるような工夫を施すことは私たちにできる。

学士課程教育はそのような一翼も担っています。先にも述べたとおり教育の成果は時間を要するものですが、今望むことは、より多くの学生に自分の専門を極める一方で広い視野を持ち、多角的な考えのできる人物として育ててほしいということです。そうなれば、社会人としても幅広いフィールドで適応力をもって活躍できるはずですし、きっと社会に求められる人材になると考えます。卒業生が広く社会で評価されることが一番ですが、優れた人材を育てるカリキュラムが専修大学の特色の一つとして認識されるようになれば嬉しいと思います。



## 専修大学 学士課程教育 詳細

スムーズにステップアップできるから大学の学びがもっと面白くなる。夢中になれる新しい学びの体系です。

4年次

3年次

2年次

1年次

### 転換教育課程

少人数制(約20～25名)のゼミナールで高校生活から大学生活への転換を図り、大学で求められる基本スキルを養成します。

- 専修大学入門ゼミナール
- ・大学で学ぶ意義
- ・専修大学の歴史
- ・大学での学び方
- ・学内施設の有効な使い方
- ・レポートの書き方や発表の仕方
- などアカデミックスキルの修得

### 導入教育課程

社会で求められる必要なスキルを含む科目を通じて、大学および社会で求められる基礎力を養成します。

- 専門入門ゼミナール
- データ分析入門
- キャリア入門
- 情報リテラシー
- あなたと自然科学
- 外国語基礎科目
- 英語
- 英語以外の外国語
- スポーツリテラシー

### 教養教育課程

導入教育課程の科目をさらに深化させた内容を履修します。専門科目のみならず、これらの分野への関心を深めることもできます。自分の専門を異なった角度から捉えることもできるようになります。

- 人文科学基礎関連科目
- 社会科学基礎関連科目
- 外国語系科目
- 英語
- 英語以外の外国語
- 海外語学研修
- 自然科学系科目
- 保健体育系科目

### 融合領域科目

教養教育課程や専門教育課程で展開される内容とは異なる学際的で複合的なテーマを扱い、複雑化する現代社会を様々な視点や広い視野から理解するための科目を展開しています。これらの科目で、思考力に加え、総合的な分析力や判断力を培います。

- 新領域科目
- 学際科目
- テーマ科目
- 教養テーマゼミナール

### 専門教育課程

基礎から発展・応用的内容へと段階的な科目配置とし、専門性を順次高めていきます。

- 基礎 ▶ 応用
- 経済学部
- 法学部
- 経営学部
- 商学部
- 文学部
- ネットワーク情報学部
- 人間科学部

point3  
興味・関心を  
深化させる

point4  
専門と教養を  
融合した学びで  
様々な視点から  
社会を理解する

point5  
各学部・学科の  
専門を着実に  
極めていく

## 専修大学 学士課程教育 体系フロー

教養教育課程  
(教養科目)

融合領域科目

専門教育課程  
(専門科目)

導入教育課程(専修大学基礎科目)

転換教育課程(専修大学入門科目)

## Profile

経営学部 教授 佐藤 暢

1970年(昭和45年)青森県生まれ。筑波大学大学院博士課程地球科学研究科修了。博士(理学) 専修大学経営学部教授。全学カリキュラム協議会共同座長、教養系科目運営委員長。専門は海洋底地球科学で、近年はインド洋や南極海での観測を行っている。 学士課程教育の導入教育課程「あなたと自然科学」や教養教育課程「宇宙地球科学」を担当。

# 専大生のチカラ

## 東都大学野球 春季リーグ優勝

26年ぶり32回目、1部復帰1シーズン目に快挙。  
東都大学野球リーグ最多優勝記録を更新。

東都大学野球春季リーグ戦で、本学野球部が8勝2敗の成績を収め、見事26年ぶりのリーグ優勝を飾りました。ここ数年は2部降格の憂き目に遭いながらも、1部リーグ復帰1年目に雪辱を果たす偉業、リーグ最多を誇る優勝回数もこれで通算32回目となります。優勝決定がかかった2015年5月の東都大学野球春季リーグ専大―拓大戦（神宮球場）は、当日の一部全授業が休講となり、在学生をはじめ校友やご父母、教職員ら約5,000人の大応援団が駆けつけました。試合は、大観衆の後押しを受けた専修大学が初回の1点を守り切り勝利。優勝決定の瞬間には選手、監督に

惜しめない拍手が送られました。専大ナインに熱い声援を送り続けた全学応援団の海野亮人団長（法4）は、試合後「今までにないたくさんの観客が、校歌で腕を振っている姿が感動的だった」と声を弾ませました。また今大会では選手個々の活躍も高く評価され、最高殊勲選手（MVP）には渡辺和哉選手（経営4）、最優秀投手には大野亨輔選手（商4）、ベストナインに本学から5名が選ばれるという快挙も達成。野球部OBである広島東洋カープの黒田博樹選手、読売巨人軍の松本哲也選手からも祝福のメッセージが届くなど、学内外から多くの賛辞が寄せられました。



| 東都大学野球リーグ優勝回数 トップ5校 |      |      |
|---------------------|------|------|
| 順位                  | 大学   | 優勝回数 |
| 1                   | 専修大  | 32   |
| 2                   | 駒澤大  | 27   |
| 3                   | 中央大  | 24   |
| 4                   | 亜細亜大 | 23   |
| 5                   | 日本大  | 22   |

（1931～2015年春季、1943～45年は中断）

## キャリア研究授業「新領域科目302」

川崎市岡本太郎美術館で実践。

キャリア研究をテーマとする「新領域科目302」は、企業が抱える諸問題を課題として解決策を見出す課題解決型学習（PBL: Project-Based Learning）の手法を採り入れた、融合領域科目の新しい正課科目です。実施初年度となった2015年は、川崎市岡本太郎美術館に

おける年間来場者10万人集客プランを立案し、学生自らが同館でのプレゼンテーションに臨みました。参加した学生はこれまでにない実践的な授業内容に「積極性が身に付いた」「チームで取り組むことで解決策を見出せた」と話し、一様に手応えを感じている様子でした。

（P.05～06に関連記事）



を顧みず人命を救助した中村さんには、拝謁した天皇陛下から直接お言葉がかけられたほか、東京メトロ、東京消防庁、東京都から次々と表彰されました。

## 法学部生、ホーム転落の男性救助 総務大臣より紅綬褒章受章。

駅ホームから転落した白杖の男性を救助した功績を称えられ、中村輝さん（法4）が、紅綬褒章を受章しました。男性は落下の衝撃でけがをしたものの軽傷でした。危険

平成27年度

## 公認会計士試験

過去最多の在学生合格。



2015年11月に公認会計士試験結果が発表され、本学からは在学生11名（男性6名・女性5名）、卒業生も含めると21名が合格を果たしました。在学生合格者の内、多くがエクステンションセンター開講の会計士講座を受講。初めて女子在学生が合格する等の快挙を成し遂げました。

※参考 在学生合格者…11人（過去最多）  
卒業生合格者…10人  
合計……………21人

※掲載の学年、情報は平成27年度時点のものです。

## グローバル人材育成プロジェクト 寮内留学プログラム

「専修大学国際交流会館」にレジデント・パートナー（RP）として入寮し、異文化理解や国際コミュニケーション力を養う寮内留学プログラム。実際に約半年間のプログラムを体験した小栗弓佳さん（文2）にお話を伺いました。

—— 寮内留学プログラムに参加したのはなぜですか。

小栗 高校時代に留学に興味を持ちましたが、はたして自分は海外で暮らし学習成果を得ることができるのか、と不安がありました。このプログラムは日本人学生がレジデント・パートナー（RP）として国際交流会館で外国人留学生と共同生活を送るもので、日本にいなから国際的な環境に身を置くことができ、自分を試すために参加しました。



—— 寮生活はどんなものでしたか。

小栗 寮室は2人部屋で半年間の前半は中国人留学生、後半は韓国人留学生がルームメイトになりました。勉強を教え合ったり、夜まで部屋で話し合いをしたり、設備の整った共用スペースのキッチンで一緒に料理やお菓子を作って食べることもよくありました。また、私たちRPがイベントを企画して、どの国の留学生も楽しめるようなスポーツ大会やサンクスギビングデー、クリスマスパーティーなども開きました。寮生が親くなるのはもちろん、様々な国の食や文化、習慣に触れ、楽しみながら異文化理解が深まりました。来日したての留学生には交代で清掃するなどの集団生活のルールが理解されず



戸惑うこともありましたが、時間をかけて理解してもらえた時は嬉しかったですね。

—— 自身の変化や学習効果は感じられましたか。

小栗 はい。留学生は勉強に対して大変意欲的で、机に向かう姿を見るたび刺激を受け、自分も勉強に対する姿勢が変わりました。当時私はスペイン語を履修していたのですが、スペイン語に堪能なアメリカ人留学生に英語でスペイン語を教わるという高度な経験もできました。すぐそばに質問できる人がいるのは学習環境としても優れていると思います。中でも最もよかったと

思うのは留学への意欲です。留学生同様国際意識が高いRPの仲間から留学経験を聞け、寮生活を通して海外をより身近に感じられたことから自信が付き、まず留学に役立ちそうな講座を積極的に受講するようになりました。そして2016年6月から、アメリカのオレゴン大学に約10ヶ月間の留学をします。広い視野を持ち、いかなる環境にも適応できる国際人になれるよう本場でしっかり学びたいですね。海外に興味がない人もいますが、それは知らないからだと思うので、興味のない人こそ参加してもらいたい。知ればきっと意識が変わる。このプログラムにはその力があると思います。

## フランス人留学生（リヨン政治学院） エモ・マルゴさん インタビュー

私は専修大学大学院文学研究科の特別聴講生として1年間留学しました。研究テーマはジャーナリズム。福島原発事故に関する地元と東京の新聞報道の比較を研究しました。ジャーナリズム専門の山田健太先生のゼミで学び、ゼミ生と共に東日本大震災の被災地や沖縄を視察できたことが一番の思い出です。話す速度や方言、知らない言葉には随分悩まされましたが、それでも一貫して日本語で学ぶことで多くの知識を吸収でき、とても勉強になりました。専修大学の先生方



は小さな疑問や相談も親身に受けてくださるので、その面倒見のよさにも助けられました。国際交流会館ではモンゴルの留学生と同室でした。様々な国の人が集まり、異国での苦勞を共感し合えるので心強かったですね。フランスでは日本と違い大学卒業後に仕事を探すのですが、私は帰国後卒業したら、専修大学で積み上げた言語の学びを活かしたり、社会問題に関わる仕事に就きたいです。

## 商学部創立50周年

商学部創立50周年記念事業として、  
特殊講義「ビジネスインサイト」を開講。

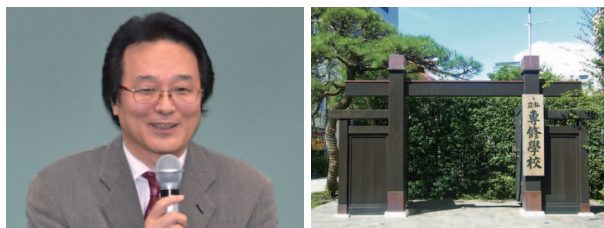
1905(明治38)年に設置された商科を前身とする商学部は2015年、商学部創設50周年と同時に、商学教育110周年を迎えました。生田キャンパスで行われた記念シンポジウムと祝賀会には、同学部の学生、卒業生、教職員ら約200人が参集。日高義博理事長の祝辞の後、社会で活躍する卒業生の講演、パネルディスカッションなどが行われ盛会となりました。また同日には、商学部50周年の節目を記念して開講された特殊講義「ビジネス・インサイト」の成果報告と優秀2チームへの表彰が行われました。「ビジネス・インサイト」は、地域の事業者や商学に関わる実務家、研究者として活躍する本学の卒業生を講師として招き行われる課題解決型の講義であり、「現実的かつ実践的なビジネスプラン」の作成に至ることを狙いとしたものです。これは商学部が掲げる「ビジネス・インテリジェンス」の育成につながるだけでなく、卒業生や地域社会との関係を深める契機となることも期待されています。



## 法学部から知の発信

大学創立140周年へ向け140回連続講演会を実施。

法学部では、大学創立140周年に向けて長期的かつ継続的に「知」を発信していく取り組みとして「140回連続講演会」をスタートしました。企画の趣旨は、ご父母・保護者や卒業生など、本学と関わりのある方々に法学部の『知の資源』を知ってもらうことを狙いとしたもので、2015年9月25日に行われた初回講演を皮切りに、2019年まで続くロングラン企画となります。学部では、広報を通じて18歳以下の若い世代にも参加を呼びかけており、初回講演と同月の21日には、高校生が「一日大学生」として授業を聴講する企画も実施されました。



## セメスター交換留学

オレゴン大学(アメリカ)へ初めて2名派遣。

2015年に、国際交流協定校の一つであるオレゴン大学へセメスター交換留学制度を利用した初めての学生派遣を行いました。セメスター交換留学とは、本学在学中に1学期相当期間(4～5か月)、国際交流協定校に留学して正規授業科目を履修し、留学先大学にて単位を修得するプログラムです。この制度は、留学期間が抑えられるため経済的な負担が少なく、また交換留学のため留学先への学費支払いが免除されるという利点があります。専修大学では、グローバル人材の育成を目指して、アメリカ、カナダ、アイルランドの3カ国5大学と本留学プログラムを実施しています。



## 社会知性フォーラム

2016年希望郷いわて国体1年前イベントを開催。

2010年度よりスタートした「社会知性フォーラム」は、本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」に基づく「知の発信」をより具体的に行っていくための取り組みであり、本学が持つ研究力・教育力を活かし、地域社会へ様々な貢献を図ることを目的として毎年実施しているものです。第6回目の開催となった2015年度は「2016年希望郷いわて国体」の1年前イベントとして「岩手国体がもたらすレガシー(遺産)」をテーマに掲げ、岩手県北上市の共催を得て、同市日本現代詩歌文学館において開催しました。当日は、矢野建一学長、北上市教育委員会の小原善則教育長の挨拶に続き、本学法学部の吉田清司教授と商学部の渡辺英次准教授の両名が講演。同県出身でバレーボール指導に携わる吉田教授は、「県民一人ひとりがおもてなしの心と、復興への感謝を伝えて欲しい」と呼びかけ、バドミントン部の部長を務める渡辺准教授は、子どもの発達とスポーツの関係性について解説し、幼児期の多様で豊富な運動の重要性を説きました。

講演後に行われたパネルディスカッションでは、ネットワーク情報学部の佐竹弘靖教授をコーディネーターとして迎え、地域のスポーツ指導者らと選手への指導方法などについて討論を行ったほか、参加者それぞれが国体への思いを語りました。会場に専大北上高生ら、これから地域を担う若い世代の聴衆が多く詰めかける中、現役のスポーツ指導者が、岩手で国体を開催する意義、地域への影響や波及効果について、壇上で意見交換を行いました。本フォーラムのテーマである「国体がもたらすレガシー」について佐竹教授は、「国体のレガシーとは“人材(=人財)”」。地域にとって財産となる人を育ててくれるだろう」とまとめました。



## 安否確認システム運用スタート

「Yahoo!安否確認サービス」を全学で導入。

専修大学及び石巻専修大学は、大規模災害発生時における学生・教職員の安否確認の効率化を図るため、「Yahoo!安否確認サービス」を用いた安否確認システムを導入しました。今後は教職員、学生個々の状況把握が容易となり、災害発生後の迅速な初動体制が確立されます。

## 学徒出陣特別展示

終戦70周年記念企画展「専修大学と学徒出陣」

昭和18年、戦局の悪化に伴い、義務付けられた学徒出陣では、本学からも多くの学生が戦地へ出征しました。終戦70年となった2015年、生田キャンパスでは、当時の写真や出征した学生の所持品を通して、激動の時代に翻弄された専修大学と専大生の姿を紹介する企画展が開催され、戦時下の記憶を継承する貴重な資料が展示されました。



## 神田キャンパス新学部構想

都心に新キャンパス整備、新学部創設を推進。

2014年秋から集中的な議論が進められていた新キャンパス・新学部創設へ向けたプロジェクトが、いよいよ本格的に始動します。新しい学部は、靖国通り沿いに取得した新校地に「グローバルコミュニケーション学部(仮称)」として創設され、グローバル化、ユニバーサル化、少子高齢化などの課題解決を託された21世紀の大学に相応しい学びの場を提供します。2020年の専修大学140周年に向けた新キャンパス誕生にご期待ください。

## ～貴重書ギャラリー～

専修大学図書館は、明治44年(1911)創立者の相馬・田尻還暦記念文庫を元に、大正元年(1912)図書館を開設、平成24年(2012)に100周年を迎えました。この間に収集した図書資料は約170万冊に及び、なかにはフランス革命期の大コレクション(ベルンシュタイン文庫)、江戸戯作コレクション(向井文庫)、蜂須賀家旧蔵本、本学ゆかりの方々の旧蔵コレクション、さらには世界の名著・古典と評される図書なども所蔵しています。

### 【洋書】 薔薇物語



ギョーム・ド・ロリス、  
ジャン・ド・マン  
『薔薇物語』写本  
Guillaume, de Lorris,  
fl. 1230  
and Jean, de Meun,  
ca. 1235-ca. 1305.  
Roman de la rose.  
leaves : 24 cm.

本書「薔薇物語」は20,000行を超える「教訓的寓話詩」と呼ばれる。ギョーム・ド・ロリス(4,000行(1225～30年頃))による未完の大作であり、後を受けたジャン・ド・マン(17,000行(1269～78年頃))によって補完され、ヨーロッパ中世が生み出した文学作品の一大傑作といわれる。前半のギョーム・ド・ロリス篇は、20歳の詩人の夢物語であり、ナルシスの泉の中の「薔薇」はなにを意味し、これを欲する強い欲望のもつ意味は、等が後世でも議論された。薔薇を得るために守らねばならない「十の戒律」は今日でもきわ

めて困難である。いわく「低俗な考えを避け、高慢に陥らず、服装に気をつけ、慎み深く節度ある話し振りに心がけ、己の天分を伸ばし、機嫌よく、陽気で快活に振舞い、物惜しみせず、女性に対し悪口を言わず全面的な敬意を払い、常に誠実で変わらぬ心で愛す」こと。後半部では念願の薔薇を手に入れるものの、記述が冗長となり、話の元の筋が何なのか見えにくくなる箇所が多い。作者ジャン・ド・マンが知り得た知識をすべて注ぎ込もうとする癖(特に女性に対する挑戦的表現が多い)としても、その中に彼の女性観、人間観、自然観が表されているといえよう。思想文学の嚆矢ともいわれる。本書は14世紀中葉、北フランスで製作されたと伝わる。本文105葉に、全体(21,720行)の3分の2を収録し、19世紀後半の著名な蔵書家トマス・フィリップス卿の旧蔵とされる。当時の写本で、現在でも所在が確認されるものは世界で300点ほどといわれ、その一書。

## 「Si-report」

「Si」とは…

「社会知性:Socio-Intelligence」の頭文字[S][I]と「SENSHU Intelligence」の頭文字[S][I]を表現しています。本誌は、専修大学のビジョンと現状をレポートしていきます。



### 【シンボルマーク&カラー】

Sの字は専修大学と21世紀ビジョン「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」の「S」を意味します。ブルーの曲線は大海原を、緑の球体は地球を表し、本学で「社会知性」を育んだ人材が世界に輩出され、活躍する様を表現しています。



専修大学マスコット  
「センディ」

### 【マスコット】

獅子の顔と鳳の羽を配した本学のマスコットは、若者たちに無限の可能性を持つ未来へ力強く羽ばたいて欲しいという思いが込められています。

専修大学 学長室企画課

(神田校舎)〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 (生田校舎)〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

Tel: 044-911-1252 Fax: 044-900-7803 <http://www.senshu-u.ac.jp/>

※本誌は、学生・教員へのインタビューに加え、ニュース専修掲載記事や本学HP等を通じて公開された情報を元に編集・発行しています。